

卒業生に対する 学修成果に関する調査報告

令和3年7月
志學館大学 学務委員会
志學館大学 IR室

1. 趣旨

学生が本学での4年間の学修の成果をどのように受け止めているかを調べるために、2020年度卒業生全員を対象に、アンケート調査を実施した。

本学のディプロマ・ポリシー（以下、DPという。）とそれに基づくカリキュラムは、2018年度入学者より大幅に改訂された。従って今回対象とした卒業生は、2年次から新カリキュラムの下での教育を受けた者ということになるが、三つのポリシーの実現度を検証するために、敢えて現在のDPを基準として調査した。

本報告において、特に断りのない場合、[]内の数値や記述は、卒業生に対して実施した過去の同様の調査（以下「2019調査」「2018調査」という）における値を示し、同順で直近のものから表記してある。

2. 資料と調査方法

アンケートの設問は、現在のDPを基に6つのカテゴリーに分けられる14項目とした。これらについて、「大学でのさまざまな学修によって、設問の能力や知識を身につけたと感じているか」を問い、「4. 大変身について」、「3. 身についた」、「2. 少しは身についた」、「1. 身につかなかった」の4つの選択肢から回答を求めた。

各設問を、DPカテゴリーと対応させて以下に示す。なお、本学のDPは、巻末に付録として示してある。

- | | |
|-----|-----------------------------|
| DP1 | Q1. 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性 |
| DP2 | Q2. 人類の文化、社会と自然に関する教養 |
| | Q3. 物事を科学的に、論理的に考える方法や力 |
| | Q4. コンピュータの操作方法や情報処理技術 |
| | Q5. コミュニケーションの能力 |
| | Q6. 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢 |
| DP3 | Q7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能 |
| | Q8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力 |
| DP4 | Q9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え |
| | Q10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力 |
| DP5 | Q11. 倫理観 |
| | Q12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識 |
| DP6 | Q13. 多様な言語・社会・文化に対する理解 |
| | Q14. 国際人として活躍する素地 |

調査は、ユニバーサルパスポートシステムを用いて行った。なお、卒業式の日までに未回答であった者を対象として、付加・補完的に紙ベースの追加調査も行った。

3. 分析結果

評価対象者（卒業生）は295 [270、256]人で、回答率は、90% [84%、89%]であった（表1）。回答率は、心理臨床学科（以下、心臨）94%、人間文化学科（以下、人文）92%、法律学科（以下、法律）86%、法ビジネス学科（以下、法ビ）84%であり、法学部でやや低い傾向にあった。回答の方法は学科間でやや相違はあるものの全体では80%がユニパを通じて行っており、データ収集の方法としては妥当であった判断できる。紙ベースによる回答割合が10%（心臨10%、人文2%、法律12%、法ビ16%）、無回答が10%であった。

各学科及び学士課程全体（以下「全学」という。）の学生の回答の平均値、標準偏差、最頻値を表2～15に示す。なお、以下の結果を理解するために、すべての回答の平均値（SD）は3.12（.58）[3.14]であったことに留意されたい。

表1 調査対象及び回答者の数

学科	対象学生数	回答者数	回答率 (%)
心理臨床	111 [105、97]	104 [103、80]	94 [98、82]
人間文化	52 [46、40]	48 [40、37]	92 [87、93]
法律	87 [75、68]	75 [49、62]	86 [65、91]
法ビジネス	45 [44、41]	38 [31、39]	84 [70、95]
合計	295 [270、246]	265 [226、218]	90 [84、89]

表1(補足) 学科別の回答方法の比較 (%)

学科	ユニパ	紙	無回答
心理臨床	84	10	6
人間文化	90	2	8
法律	75	12	14
法ビジネス	69	16	16
合計	80	10	10

3.1 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性

この設問は、本学の建学の精神に関連するものである(表2)。

各学科の平均値は、全学平均値である3.2 [3.2、3.0] 近傍にあり、学科間の差は、Q3、Q8、Q9、Q10、Q11とともに小さい設問であった。

最頻値は、人文及び法律で4、全学及び他学科で3 [全学及びすべての学科で3] であった。

表2 Q1に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.81)	3	3.1(.86)	3	3.1(.74)	3
人間文化	3.4(.65)	4	3.2(.59)	3	3.0(.76)	3
法律	3.3(.78)	4	3.3(.66)	3	3.0(.71)	3
法ビジネス	3.2(.64)	3	3.2(.76)	3	3.0(.79)	3
全学	3.2(.75)	3	3.2(.77)	3	3.0(.74)	3

3.2 人類の文化、社会と自然に関する教養

この設問は、主に教養教育あるいは共通教育に関連するものである(表3)。なお、人間文化学科では、専門教育全体とも関連していると見なせる。

全学での平均値は3.1 [3.1、2.9] で、学科間では、人文が3.4 [法律3.3、人文3.1] でもっとも高く、法ビで2.9と低かった。Q2、Q6、Q13とともに学科間の差異が大きい項目であった。

最頻値は、人文で4 [法律で3、4同数] で、全学及び他の学科では3であった。

表3 Q2に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.85)	3	2.9(.83)	3	2.9(.75)	3
人間文化	3.4(.67)	4	3.1(.76)	3	3.1(.89)	3
法律	3.1(.69)	3	3.3(.71)	3、4	2.8(.75)	3
法ビジネス	2.9(.74)	3	3.2(.72)	3	2.8(.76)	3
全学	3.1(.77)	3	3.1(.79)	3	2.9(.77)	3

3.3 物事を科学的に、論理的に考える方法や力

全学での平均値は3.1 [3.1、3.0] で、学科間の差異が最も小さい項目の1つであった（他にQ8、Q11）（表4）。最頻値は、全学及びすべての学科で3であった。

表4 Q3に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.86)	3	3.0(.80)	3	3.0(.86)	3
人間文化	3.1(.79)	3	3.2(.75)	3	3.1(.88)	3
法律	3.2(.77)	3	3.3(.62)	3	3.0(.86)	3
法ビジネス	3.1(.71)	3	3.1(.83)	3	3.0(.84)	3
全学	3.1(.80)	3	3.1(.77)	3	3.0(.85)	3

3.4 コンピュータの操作方法や情報処理技術

全学での平均値は2.9 [3.0、2.9] で、やや低かった設問2つ（ほかにQ14）の中の一つである（表5）。学科間では、心臨、人文で3.1と高く、法律2.8、法ビ2.7で低かった。最頻値は、法律で2 [3、4同数] で、全学及びその他の学科では3であった。

表5 Q4に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.77)	3	2.9(.78)	3	3.0(.79)	3
人間文化	3.1(.78)	3	3.0(.82)	3	3.1(.74)	3
法律	2.8(.89)	2	3.0(.82)	3、4	2.9(.87)	3
法ビジネス	2.7(.65)	3	3.1(.70)	3	2.8(.87)	2
全学	2.9(.80)	3	3.0(.78)	3	2.9(.82)	3

3.5 コミュニケーションの能力

平均値は、人文と法律で高く、ともに3.4 [法律3.6、学科間の差は少ない]で、心臨では3.0で、学科間の差異が比較的大きな項目となった（表6）。最頻値は、法ビが3で全学及び他学科は4であった。

表6 Q5に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.90)	4	3.0(.87)	3	3.1(.80)	3
人間文化	3.4(.84)	4	3.2(.71)	3	3.2(.78)	3
法律	3.4(.76)	4	3.6(.64)	4	3.0(.85)	3
法ビジネス	3.2(.65)	3	3.2(.67)	3	3.1(.90)	4
全学	3.2(.83)	4	3.2(.80)	4	3.1(.82)	3

3.6 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢

全学の平均値は3.2 [3.3、3.2] と、例年平均値が高い設問のひとつであるが、学科間では、人文が3.4 [法律3.4] と高く、法ビ2.9 [法ビ3.1] で低く、学科間の差異が大きかった [学科間の差は少なかった]（表7）。

最頻値は、いずれの学科また全学でも3であった [心臨のみが3、他学科は4]。

表7 Q6に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.76)	3	3.2(.78)	3	3.1(.84)	4
人間文化	3.4(.67)	3	3.3(.73)	4	3.2(.89)	4
法律	3.2(.75)	3	3.4(.73)	4	3.1(.76)	3
法ビジネス	2.9(.77)	3	3.1(.93)	4	3.2(.79)	3
全学	3.2(.75)	3	3.3(.78)	4	3.1(.81)	3

3.7 専門分野や所属する学科の専門知識や技能

全学の平均値は3.2[3.3、3.2]であった。学科間では、人文が3.4と高く、法ビが3.0で低かった(表8)。

最頻値は心臨、人文及び全学が4、法律が3と4が同数、法ビが3であった[人文のみ3、他学科は4]。

表8 Q7に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.83)	4	3.2(.76)	4	3.3(.72)	4
人間文化	3.4(.74)	4	3.3(.72)	3	3.0(.82)	3
法律	3.1(.85)	3、4	3.4(.73)	4	3.2(.75)	3、4
法ビジネス	3.0(.72)	3	3.3(.78)	4	3.1(.83)	4
全学	3.2(.81)	4	3.3(.74)	4	3.2(.77)	3

3.8 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力

この設問は、課題発見・解決型教育やアクティブラーニングに関連するものである。

平均値は、全学では3.1[3.1]で、学科間の差異はQ3、Q11とともに最も小さかった[法律が3.4とやや高かった、学科間の差は小さかった](表9)。

最頻値は、すべての学科で3[3]であった。

表9 Q8に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.81)	3	3.0(.76)	3	2.9(.75)	3
人間文化	3.2(.69)	3	3.1(.74)	3	3.0(.83)	3
法律	3.1(.88)	3	3.4(.69)	3	3.1(.78)	3
法ビジネス	3.1(.69)	3	3.3(.58)	3	2.9(.79)	3
全学	3.1(.79)	3	3.1(.73)	3	3.0(.78)	3

3.9 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え

この設問は、主にキャリア教育及び職業観の涵養に関連するものである(表10)。

平均値は、全学では3.3[3.1]で、全ての設問の中で最も高かった。学科間の差異は小さかった[すべての設問の中でもっとも大きかった]。

最頻値は、心臨と法律及び全学が4、人文が3と4で同数、法ビが3であった。

表 10 Q9 に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.86)	4	3.1(.83)	4	3.1(.83)	3
人間文化	3.3(.69)	3、4	2.9(.84)	3	3.1(.88)	3
法律	3.4(.67)	4	3.6(.61)	4	3.1(.85)	4
法ビジネス	3.3(.69)	3	3.4(.66)	3、4	3.3(.85)	4
全学	3.3(.76)	4	3.2(.79)	4	3.1(.84)	4

3.10 生涯にわたって学習を続けていく意思や力

この設問は、生涯学習能力の涵養に関連するものである（表 11）。

平均値は、すべての学科で、全学平均値である 3.2 [3.2、3.0] 近傍にあり、学科間の差は小さかった。

最頻値は、心臨と法律が 4 で、全学及び他学科は 3 [人文と法律 4、全学及び他学科 3] であった。

表 11 Q10 に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.83)	4	3.2(.80)	3	3.1(.85)	3
人間文化	3.3(.68)	3	3.3(.75)	4	3.1(.88)	3
法律	3.2(.81)	4	3.4(.67)	4	3.0(.86)	3
法ビジネス	3.1(.71)	3	3.2(.78)	3	3.2(.94)	4
全学	3.2(.78)	3	3.2(.76)	3	3.1(.87)	4

3.11 倫理観

平均値は、すべての学科で、全学平均値である 3.2 [3.2、3.0] 近傍にあり、学科間の差が最も小さい項目となった（表 12）。

最頻値は、心臨が 4 で全学及び他学科はすべて 3 であった [全学及び全学科とも 3] であった。

表 12 Q11 に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.82)	4	3.2(.81)	3	3.0(.90)	3
人間文化	3.1(.78)	3	3.1(.67)	3	3.1(.88)	3
法律	3.2(.76)	3	3.2(.62)	3	2.9(.83)	3
法ビジネス	3.1(.70)	3	3.3(.68)	3	3.0(.78)	3
全学	3.2(.78)	3	3.2(.73)	3	3.0(.85)	3

3.12 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識

平均値は、心臨を除く学科で、全学平均値である 3.2 [3.1] 近傍にあったが、心臨は 3.0 と相対的に低かった [法律が 3.3 と高かった]（表 13）。

最頻値は法学部 2 学科が 4、人間関係学部 2 学科は 3 であった [法律 4、他学科はすべて 3]。

表 13 Q12 に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.89)	3	3.0(.93)	3	2.9(.87)	3
人間文化	3.2(.83)	3	3.0(.77)	3	3.1(.86)	3
法律	3.3(.77)	4	3.3(.72)	4	3.0(.79)	3
法ビジネス	3.3(.86)	4	3.2(.82)	3	3.1(.87)	3
全学	3.2(.84)	4	3.1(.85)	3	3.0(.84)	3

3.13 多様な言語・社会・文化に対する理解

この設問は、異文化理解、多文化共生と呼ばれる領域に関連するものである。

全学の回答の平均値は 3.0 [3.2, 2.9] であり、法ビ 2.8、心臨 2.9 と低く、人文が 3.4 と高かった。学科間の差が最も大きな項目であった (表 14)。

最頻値は心臨が 2、人文が 4、全学及び他学科は 3 であった [心臨と法ビで 4、他学科で 3]。

表 14 Q13 に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.89)	2	3.1(.89)	4	2.8(.89)	3
人間文化	3.4(.68)	4	3.2(.74)	3	3.2(.83)	4
法律	3.0(.82)	3	3.2(.77)	3	3.0(.80)	3
法ビジネス	2.8(.92)	3	3.3(.79)	4	3.0(.81)	3
全学	3.0(.86)	3	3.2(.82)	3、4	2.9(.85)	3

3.14 国際人として活躍する素地

この設問は、いわゆるグローバル人材育成に関連するものである。

全学の回答の平均値は 2.6 [2.8, 2.6] で、2019 調査及び 2018 調査と同じく全設問中でもっとも低かった (表 15)。学科間でも、心臨の 2.5 [2.5, 2.4] から人文の 2.9 [法ビの 3.0、人文の 2.9] まで大きな差があった。なお、心臨の 2.5 [2.5] は、すべての設問・学科中でもっとも低い値であった (3 年連続)。

最頻値は、心臨と法律で 2、他学科では 3、全学は 3 と 4 同数であった。心臨は 3 年連続で 2 であった。二つの学科で 2 となったのは、この項目だけであった。

表 15 Q14 に関する統計的代表値

学科	2020 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.5(.96)	2	2.5(.99)	2	2.4(1.03)	2
人間文化	2.9(.89)	3	2.8(.78)	3	2.9(.95)	3
法律	2.7(.94)	2	2.9(.90)	3	2.6(.99)	2
法ビジネス	2.6(.89)	3	3.0(.78)	3	2.7(.85)	3
全学	2.6(.94)	3、4	2.8(.93)	3	2.6(.99)	3

4. まとめ

4.1 設問項目ごとのまとめ

本調査では、全回答数 3710 [3162, 3052] のうち 41% [43%, 41%] を選択肢 3 が占め、また設問ごとの回答平均値の大半が 3.0±0.2 程度にあるという過去 2 カ年間の調査と同様、「中庸」的な結果であったが、ごく少数ではあるが、それら以外 (平均値 3 から離れた値であったり、最頻値が 2 や 4 であった場合など) であった事項から、DP に掲げる教育達成目標の実現度を学生がどのように感じているか、ある程度浮き彫りにできたと考える。

全学で回答平均値が高く、全学最頻値 4、学科最頻値 4 が多い設問は、学生の達成感が高いと判断した。この群には、「コミュニケーション能力(Q5)」、「専門知識や技能(Q7)」、「職業観(Q9)」、「地域貢献意識(Q12)」と要約できる項目が入る。2019 調査ではこの群には「自ら学ぶ姿勢(Q6)」、「専門知識や技能(Q7)」、「職業観(Q9)」が入っており、ほぼ一致している。一方、回答の傾向が上記と逆の場合は、達成感が低いと判断できる。これには、「国際人として素地(Q14)」が当てはまり、2019 調査と同じであった。ただし Q14 は全学でも学科別でも標準偏差も総じて高く、個人差が大きい観点と言える。

回答平均値の学科間での差が小さく、全学での標準偏差が大きくない設問は、比較的全学一様な教育になっていると判断した。これには「科学的論理的思考力(Q3)」、「問題発見・解決能力(Q8)」、「倫理観(Q11)」が入る。2019 調査での同群には、個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性(Q1)」、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」、「専門知識や技能(Q7)」、「生涯学習能力(Q10)」、「倫理観(Q11)」、「異文化等の理解(Q13)」が入っており、「倫理観(Q11)」はこの群に共通して出現している。一方、逆の場合は、学生の達成感に学科間での差が大きかったと言える。これには「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」、「自ら学ぶ姿勢(Q6)」、「異文化等の理解(Q13)」が入った。2019 調査での同群は「国際人の素地(Q14)」であった。

4.2 学科平均値の比較による各学科の特色

2020 調査における各学科の特色は、次の通りである。

(心理臨床学科)

まず心理臨床では、全 14 観点中 7 つで平均値の学科間比較で最低点があった。特に「国際人の素地(Q14)」は全学科中最低点 2.5 であり、全ての項目のなかでも最も低い値であった(ただしそれ以外はいずれも項目平均値は 3.0 を超えている)。学科間比較で最高点となった観点は 2 つあり、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」3.1 と「倫理観(Q11)」3.2 である。

最頻値が 2 となった観点は 2 つあり、「異文化等の理解(Q13)」と「国際人の素地(Q14)」であった。

(人間文化学科)

人文は学科間比較で最高点となった観点が 14 観点中 10 あり、多くの観点で獲得実感を持っていることが分かる。一方最低点となったものは 2 つあり、「科学的論理的思考力(Q3)」と「倫理観(Q11)」であった(ただしいずれの平均値も 3.0 は超えている)。

最頻値が 2 となった観点はなかった。

(法律学科)

法律は、学科間比較最高点となった観点が 5 つ、最低点となった観点は 1 つであった。特に「コミュニケーション能力(Q5)」と「職業観(Q9)」は 3.4 と全設問中最も高い得点となっている。「問題発見・解決能力(Q8)」が最低点となったが平均値は 3.1 であった。

最頻値が 2 となった観点は 2 つあり、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」と「国際人の素地(Q14)」であった。

(法ビジネス学科)

法ビは学科間比較で最低点となった観点が 10 と多かったが、「地域貢献意識(Q12)」は法律と並んで最高点となっていた。

最頻値は人文と同じく 2 となった観点はなく、Q12 以外はすべて 3 であった。

(全学)

あらためて 2020 調査の全学での傾向を見てみると、平均値が相対的に高く(3.2 以上)、最頻値が 4 となっている観点は、「コミュニケーション能力(Q5)」、「専門知識や技能(Q7)」、「職業観(Q9)」、「地域貢献意識(Q12)」の 4 つであり、DP を束ねて本学が重視してきた部分と概ね合致していると言える。

全学的に学生の獲得感が得られていない観点(3.0 以下)は、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」と「国際人の素地(Q14)」の 2 つである。

4.3 DP 項目ごとの受け止め方

各設問の回答を、6 つの DP カテゴリ一別にまとめて分布を調べた。図 1 に [2020 調査] 結果を、図 2・図 3 には順に [2019 調査]、[2018 調査] 結果を示す。

[2020 調査] では、[2019 調査] 及び [2018 調査] と同様に、DP1～3、DP5 及び DP6 では、3 にモードを持ち、左に裾を引く、似通った分布を示した。ただし、[2019 調査] [2018 調査] とともに他の DP 項目の分布と異なる分布と評価した DP6 では、[2020 調査] でも引き続き、2 と 1 の比率が比較的高いものであった。これらの項目に比して、DP4 では 3・4 にモードがあり、異なる分布を示した。この傾向は調査開始以降一貫している。

上記の結果は、DP4「職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している」の達成度は比較的高く、DP6「多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている」すなわちグローバル化対応能力の達成度は、依然としてなおやや低いと学生が感じていることを示唆しているともまとめることができる。

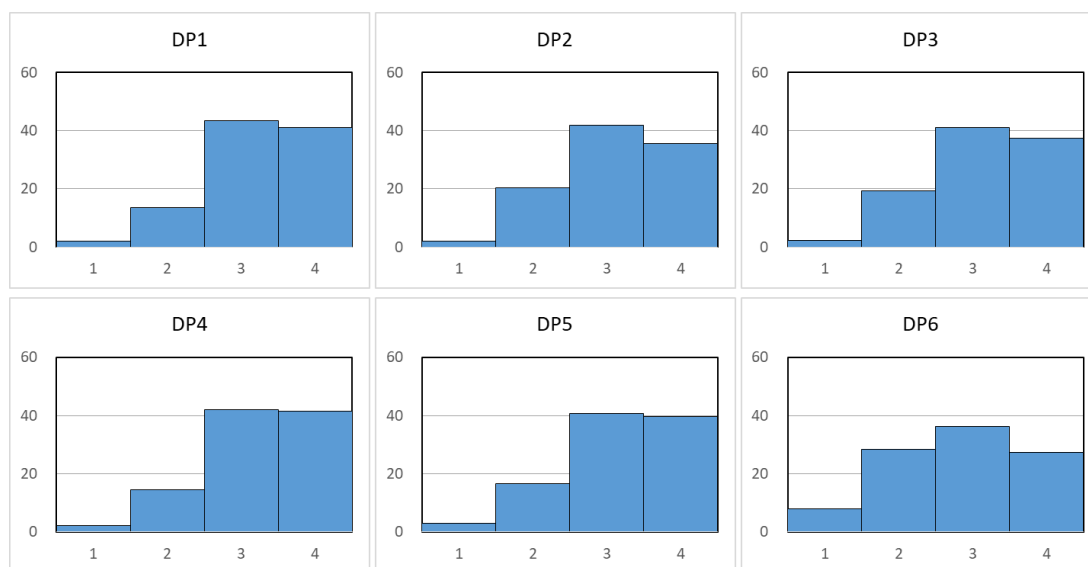


図1 GP カテゴリー別の回答の分布 [2020 調査]

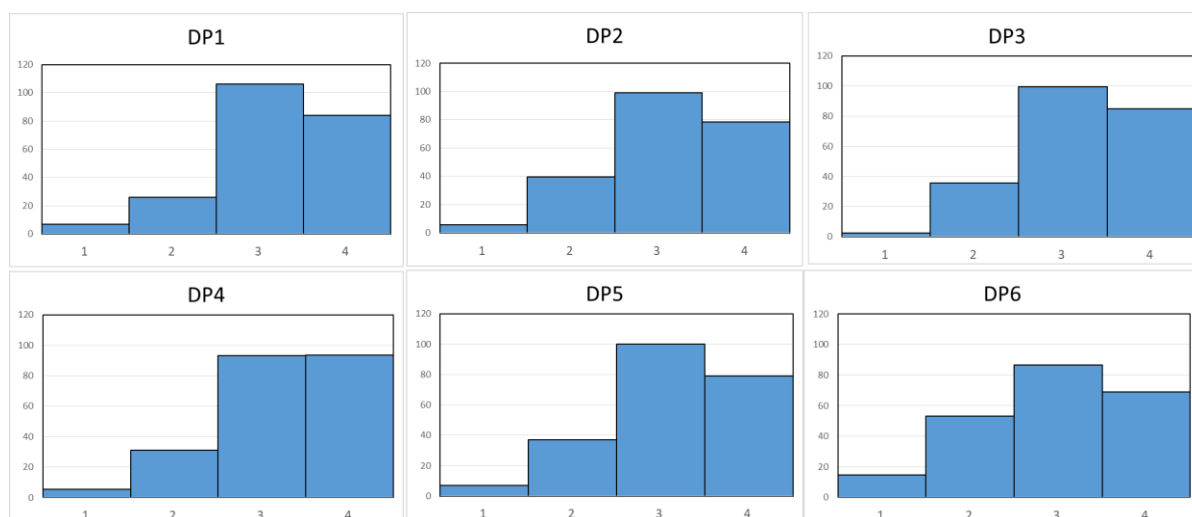


図2 [2019 調査]

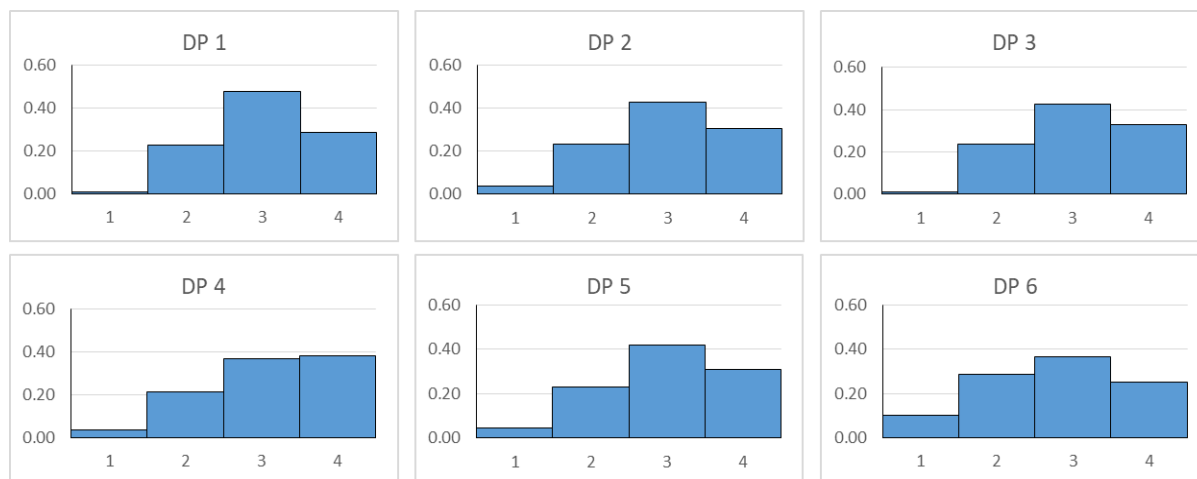


図3 [2018調査]

4.4 本学の個性・特色の反映等

上記の結果から、本学がその個性・特色として標榜している事項の中で、「学生の社会参画意識を育む大学」、「地域とともに歩む大学」は、学生が獲得できたと感じていると評価できる。

教養教育と関連する「人間力教育」と、倫理観に関連する「コンプライアンスと誠実性」については、一部の学科で達せられている。

平成20年度中教審答申が提起した「学士力」の中で、専門分野に関わらず求められている、「汎用的技能」のうち、「コミュニケーション・スキル」は得られたとしているが、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」が得られたかについては、学生は必ずしも高くは評価していないとまとめることができる。

5. 結語

今後、質問項目を維持しつつ、現在のDPの下で編成されたカリキュラムで4年間の教育を受けた学生の卒業時を跨ぐ期間にわたってモニタリングすることで、本学の教育の成果と達成度に関する貴重な資料が得られると考える。

【付録】

志學館大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に従い、その教育目標を実現することを目指し、以下に掲げる資質・能力を修得した者に学士の学位を授与します。

- 1 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性が身についている。
- 2 人類の文化、社会と自然に関する豊かな教養と科学的・論理的思考法、情報処理技術、コミュニケーション能力を身につけ、自ら学ぶことの喜びを知っている。
- 3 実践的で体系的な専門的知識と技能を身につけ、総合的な問題発見・課題解決能力を持っている。
- 4 職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している。
- 5 倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている。
- 6 多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている。